

Psoriasis News

発行

NPO法人 大阪難病連加盟
大阪乾癬患者友の会(梯の会)

特集 ◎第40回学習懇談会



(設立20周年記念学習懇談会)

・・・ Index ・・・

・会長挨拶	P1	・山中恵一先生講演	P8
・活動報告・活動方針	P2	・乾癬の疑問に答える	P11
・決算報告・予算案	P3	・乾癬ワンポイントアドバイス	P11
・第40回学習会	P4	・お知らせなど	P13
・学習会アンケート	P6		

会発足20年を過ぎ、改めて患者会の継続とより会員の皆様に寄り添った、楽しく有益な患者会であり続けることを目標に会を運営していきたいと考えています。継続すべき行事を続けるとともに、新基軸のイベントも始めていきたいと考えています。学習懇談会に併せて例えばミニコンサート他、会を気軽に楽しめる企画も開催できればより皆様に楽しんでいただけたらと思います。また乾癬に苦しんで

会員の皆様、平成31年度の始めにあたってご挨拶をさせていただきます。昨年は春には新築移転した日本生命病院にて学習懇談会を開催することができ、秋に大阪大学にて無事20周年記念行事を終えることができました。20周年を迎え、また拠点の病院が新しくなった機会に合わせ、会の活動の変化の時期に差し掛かったように感じます。

平成31年は今までの活動をより幅を広げるように努力していきたいと思っております。会員の皆様には是非行事への積極的なご参加をお待ちしています。

全国に目を向けると、平成30年には日本乾癬患者連合会なかで四国に愛媛と徳島の2つの新しい患者会が発足し、梯の会はその発足をお手伝いすることができました。当会としては地元関西にて引き続き患者の皆様への乾癬に対する不安をなくしよりよい生活を指すための活動を行うとともに近隣にも多くの乾癬患者がよりよい生活を送れるよう有益な活動を続けていくように考えています。

会員の皆様に寄り添った患者会を目指して

会長 岡田



また新しい会員参加への勧誘と、会の運営への参加もよろしく願っています。また大阪難病連連の情報収集も積極的にいに行い必要な情報をタイムリーに皆様にお伝えしていきます。

多岐にわたる活動を行うために多くの幹事ならびに協力者が必要です。折につけて皆様にお願ひしてまいります。会の運営にも積極的にご参加いただきますようよろしくお願いいたします。

本年も会員の皆様の病状が安定し、明るく生活ができることを願っています。

平成30年度に実施した行事

項目	回数	内容	時期	備考
定例総会・学習懇談会	2回	日本生命病院、阪大	5月、12月	新日本生命病院
女子の会開催	2回			
交流行事	0回			昨年度は実施できませんでした
会報発行	3回			
幹事会	12回	会の運営	毎月	西区民センターにて
乾癬学会	1回	松山		展示、学習会、交流
皮膚科学会	1回			展示、交流
臨床皮膚科医会	1回			展示、交流
三重の行事参加	2回	温泉、海水浴	3月、8月	数名参加
患者会発足協力	2回	徳島、愛媛		両会の発足関連の行事に参加し発足にご協力いたしました。
懇談会	0回	休止中		企画運営
大阪難病連 行事	複数回	大阪市内	ほぼ毎月	幹事参加
難病連 講演会	複数回	大阪市内		

平成31年度の行事計画（ゴシック太文字は今年の注目行事）

項目	回数	内容	時期	備考
定例総会・学習懇談会	2回	未定	6月、11月頃	新基軸のイベントを計画中 (学習会に併せてミニコンサート等イベントの開催を検討中)
女子の会開催	2回		春、秋	
交流行事	1-2回			
会報発行	3回		月	
幹事会	12回	会の運営	毎月	原則西区民センターにて
乾癬学会	1回	京都	8/30-31	運営
乾癬学習会と懇親会	1回	京都	8/31	大阪にて対応
皮膚科学会	1回	名古屋市	6/6-9	
臨床皮膚科学会	1回	松山市	4/20-21	大阪にて対応
三重の行事参加	2回	温泉、海水浴	3月、8月	数名参加
西日本交流会	1回	あいち三重大阪の交流会	春	計画中
地区懇談会	数回	各所での患者交流会		調整中
大阪難病連 街頭キャンペーン	10回	大阪市内	ほぼ毎月	幹事参加 賛同者の参加をお願いします。
難病連 講演会	複数回	大阪市内		
20周年記念誌発刊	1回		秋まで	発刊準備中

2018年度収支決算報告書(自:2018年1月1日～至:12月31日)

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	630,622	通信費	157,992
年会費入金 (@3,000円×138名分)	414,000	交通費	100,320
助成金	0	印刷費	3,860
寄付金	234,500	学習会費	292,900
雑収入(学習会参加費等)	213,224	学会費	262,436
		事務費	108
		会議費	19,080
		交流会費	0
		関係団体(乾癬連合会等)会費	30,000
		雑費	27,315
		20周年記念行事積立金	100,000
		小計	994,011
		次年度繰越金	498,335
		(別途 預り金)	256,400
合計	1,492,346	合計(預り金を除く)	1,492,346
大阪乾癬患者友の会		上記収支においてすべての帳票を調べた結果 収支ともに誤りなきことを証します。	
会計 桔梗 誠治			
2019年1月12日		会計監査 加納修二	

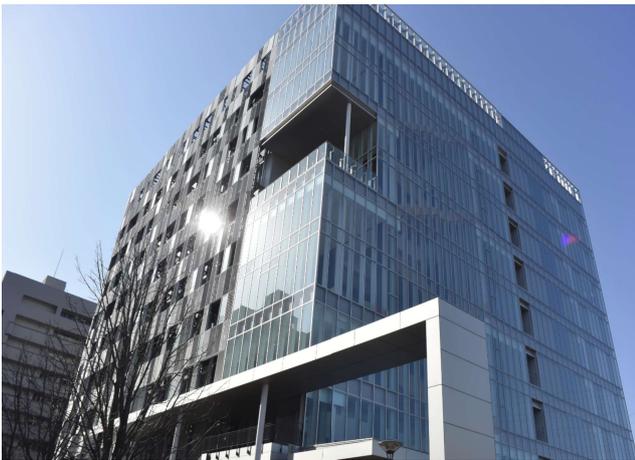
2019年度運営予算書(自:2019年1月1日～至:12月31日)

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
前年度繰越金	498,335	通信費	150,000
本年度会費 (@3,000円×150名)	450,000	交通費	100,000
助成金	50,000	印刷費	450,000
寄付金等	200,000	学習会費	200,000
雑収入(学習会参加費等)	50,000	学会費	150,000
20周年積立金解約	400,000	事務費	5,000
		会議費	20,000
		関係団体(乾癬連合会等)会費	30,000
		25周年記念行事積立金	100,000
		雑費	10,000
		小計	1,215,000
		次年度繰越金	433,335
合計	1,648,335	合計	1,648,335
上記2019年度予算案策定しました。 2019年1月12日		大阪乾癬患者友の会 幹事会	

第40回学習懇談会(設立20周年記念学習懇談会)開催

20年の思いを込めてトークセッション

講演は三重大 山中恵一先生



阪大イノベーションセンター

昨年の12月2日(日)に大阪大学吹田キャンパス医学部内にある最先端医療イノベーションセンター1Fマルチメディアホールにおいて、第40回大阪乾癬患者友の会学習懇談会(大阪乾癬患者友の会設立20周年記念学習懇談会)が開催されました。

本会は1998年(平成10年)に大阪大学附属病院で発足したのですが、その記念すべき思い出の地で今回の記念学習会が行われました。会場は2014年(平成26年)に出来たばかりの本当に素晴らしい会場で、マルチメディアホールは各座席にモニターが設置されており、中央スクリーンのみならず間近で発表プレゼンテーションを見ることが出来ます。



山中恵一先生

学習会は12時30分より本会岡田会長の挨拶及び、宮城から駆けつけていただいた日本乾癬患者連合会(JPA)事務局長の柴崎氏の挨拶により始まり、まず医療講演として、三重大大学の山中恵一教授が「三重大大学皮膚科での乾癬治療の取り組み」という題目で講演をして頂きました。山中先生は三重大唯一の大学病院の皮膚科医療の中心として、地元三重大から大勢来られる乾癬患者の治療をどのように行っているのかを非常に詳しくまた分かりやすく説明していただきました。治療については塗り薬・飲み薬・光線療法、そして生物学的製剤に至るまで一つ一つ丁寧に、三重大での治療法、治療経過などについて、多くの資料や写真に基づいて、最先端の治療薬にも触れながら講演を行われました。皮膚の症状だけではなく、QOLにまで大きな影響を及ぼす乾癬という病気の特徴や、それに伴う患者さんの悩みや苦しみにも沿いながら治療を進めておられる様子



質疑応答

が非常によく窺えたと思います。講演の後は質疑応答の時間となり、山中先生、東山先生以外にも当日御参加頂いた多くの先生方にも壇上に登って頂き、会場から受け付けた多くの質問に対して非常に丁寧に時間をとってお答え頂きました。

後半は、今回が会発足20周年に行った記念すべき学習会であり、その特別企画として、創立から現在に至るまでの活動の深く携わってきた皆さんによるトークセッションを行いました。本会は1998年(平成10年)12月7日に、大阪大学で45名の会員で発足しましたが、セッションでは様々な方面からこの20年の歴史を振り返っ



20年を振り返る トークセッション

てみました。東山先生の進行により、最初に岡田会長から本会の歴史のあらましや活動内容の概略について説明を行いました。最初に本会の立ち上げに非常に尽力して頂いた大阪大学名誉教授で本会顧問の吉川邦彦先生より、創立しようと思われた理由やその事情を語って頂きました。吉川先生がお

に就かれた森氏より、いざ立ち上げに
なつて会長職を決める時などの様子を
具体的に描写して頂きました。決して
順調な立ち上がりではなかったのです
が、吉川先生、東山先生、そして森前
会長始め、当時の幹事の方々の尽力に
より現在の患者会の原型が創り上げら
れて行きました。次に創設時より現在
までずっと幹事を務めておられる加納
氏より、やはり当時の思い出が述べら
れました。そして阪大医学部の技官と
して本会のホームページや学習会の準
備など、いわば裏方的な仕事をほとん
ど全て引き受けて下さっている西田健
樹氏より、お手伝いして下さった経緯
やホームページ立ち上げの話などをし
て頂きました。また日本生命病院の看
護師長として、やはり医療サイドから
本会を支えて頂きました山下利子氏よ
りも看護師の視点からのお話をして頂
きました。さらに本会の副会長として
運営に携わっている吉岡氏からは、特
に女子会を企画運営し、食事会やミニ
旅行などを行い、その中で多くの語ら
いがなされていることを、そして編集
担当の小林からは、森氏の後を受けて
作成をしてきた会報「プソリアニュー
ス」や、多くの先生方や皆さんの協力
によって出来上がった5周年・10周
年・15周年記念誌などについて触れ
ました。その後、本会相談医である小
林皮膚科クリニックの小林照明先生か
ら、会報に連載している「乾癬ワンプ



懇親会

イントアドバイス」などについてのお
話を頂きました。さらにやはり副会長
として、専門の建築分野に関わる史跡
巡りなどの案内を担当してきた妻木氏
よりは、あれよあれよという間に副会
長になってしまったということなどを
ユーモアを交えて語ってくれました。
また幹事の中では最も若い長生氏から
は、乾癬や他の病気で本当に苦しんで
いた時、学習会に参加することによつ
て一筋の光明を得て、それから患者会
活動などに参加していったいきさつな
どが述べられました。最後に岡田会長
よりまとめの話があり、これからの会
の発展を祈ってトークセッションは終
わりました。長い時間でしたが、参加
者の皆様は最後まで非常に熱心に耳を
傾けてくださいました。
その後すぐイノベーションセンター

のすぐ近くにある、「ミネルヴァ」で
幹事原田氏司会による懇親会が行わ
れ、50名近くの参加で盛り上がりま
した。東京・愛知・三重・徳島の患者
会などからも駆けつけてくれ、祝辞を
頂きました。また本会相談医の先生方
をはじめ多くの皮膚科医の先生がたに
もなどにもご挨拶を頂きました。乾癬
は難治性の皮膚病に相違ありませんが、
逆にその病気そのものが多くの人の出
会いや結びつきも実現しており、それ
は何物にも代えがたい価値あることだ
ということが実感できるような和やか
な懇親会だったと思われまふ。
こうして今回の20周年記念学習懇
談会も盛況の内に幕を閉じました。



最後にみんなで集合！

第40回学習会参加者アンケート(回収数31 複数回答がありますので合計31名を超えることもあります)

質問項目		人数	具体例・備考など
1. 今回の学習会をどのようにしてお知りになりましたか。			
	医師や病院の紹介	4	
	会員向け郵送チラシ	14	
	本会のホームページ	10	
	新聞記事		
	その他	1	
2. 今回学習会に参加されたのは初めてですか。			
	はい	9	
	2回目	4	
	3回目	5	
	4回目	2	
	それ以上	9	
3. 参加された方は。			
	本人	25	
	家族	8	
	医療関係者	2	
	その他		
4. 患者の方、乾癬の種類はなんですか			
	尋常性乾癬	19	
	滴状乾癬	1	
	乾癬性関節炎	10	
	乾癬性紅皮症		
	膿疱性乾癬	2	
5. 乾癬になって何年ですか。			
	1年未満	3	
	1年～5年	3	
	6年～10年	5	
	11年～20年	6	
	21年～30年	6	
	31年以上	3	
6. 今どのような治療を受けておられますか。			
塗り薬	ボンアルファ	3	
	オキサロール	7	
	ドボネックス	2	
	ドボベツト	11	
	マーデュオックス	5	
	その他		デルモベート1、リドメックスコーワ1、アンチベート1、ヒルロイド1、アズトールポアラ1、ゼビアックス1、マイザー1
光線療法	PUVA		
	ナローバンドUVB	5	
	エキシマライト	1	
	その他		
内服薬	エトレチナート(チガソン)	1	
	シクロスポリン(ネオーラル)	2	
	その他		メトトレキサート1、リウマトレックス1、アレロック1、サラゾスル1、ファピリジン1、メトレート2、プレドニン1
生物学的製剤	レミケード	3	
	ヒュミラ	6	
	ステラーラ	1	
	コセンティクス	1	
	トルツ	2	
	トレムフィア	2	
	その他		

7.今日の学習会の感想をお書き下さい。

- ・今日初めてで、このような学習会があるのはありがたいと思いました。
- ・本当に勉強になりました。来ようかどうしようかと迷いましたが、来て良かったです。
- ・山中先生の講演、とてもわかりやすく良かったです。
- ・Q&Aは患者の生の声、悩みを知る上で大変勉強になります。
- ・わかりやすく説明をして頂きありがとうございました。参加して良かったです。
- ・「白血球を呼び寄せない！」「似たもの同士！」山中先生のお話はとても分かりやすかった。
- ・山中先生の講演、大変分かりやすくお話を頂きありがとうございました。
- ・非常に分かりやすい講演で役に立った。
- ・生物学的治療に関心があったので参考になった。
- ・運営も話の内容もよかったです。会場の場所が分かりにくかった。あとは本当にお疲れ様でした。感謝します。
- ・先生のお話はとても良くわかりました。
- ・講演が聞きやすく分かりやすい。
- ・田舎で難病(?)になるのは大変です。幸いに大阪市在住。関西医大の皮膚科に。病院が新しくなり、我が家の近くまでシャトルバスが。病気になったのは大変ですが、病院・医者に恵まれてラッキー！と思うようにしています。
- ・とても分かりやすく良かったです。
- ・とても参考になりました。なかなか効果はありませんが、トレムフィア続けていきたいです。
- ・非常に有益でありました。ありがとうございました。
- ・先生方はじめ皆さん方によくやってもらっています。泊まりがけで来ていつも楽しみによく分かるので参加しています。
- ・視点が違うので良かったです。関節炎は今まで気にしていませんでした。
- ・山中先生のすばらしい講演に感銘を受けました。私も関節症の医療環境格差に問題を感じていたので先生の活動、医療の取り組みに深く感動しました。
- ・乾癬の構造がよく分かりました。いろんな治療があることが分かり少し安心しました。

8.大阪乾癬患者会の行事(学習会など)について、御意見・御要望がありましたらお書き下さい。

- ・ネットで見つけた患者会に入りたいと思ってアクセスしたのですが、反応がなく悶々としておりました。まさかこんなに色々な患者会があるとは知りませんでした。今日お話が聞いて良かったです。
- ・本日のQ&Aを何かの方法で共有してほしい。
- ・毎回勉強になるし励みになる。
- ・和歌山でもまた開催して頂けたらありがたいです。
- ・必要だと思いました。
- ・ふだんの日曜日は仕事のため、土曜日に参加できるものがあるとうれしいです。
- ・もっとあっても出席しますが、皆さん(役員さん方)の負担が大変でしょう。
- ・久しぶりに参加させて頂きましたが、大変素晴らしい内容に感銘を受けました。三重大の取り組み、関節のお話など大変勉強になりました。
- ・大変お世話になります。お忙しい中ありがとうございます。

9.会報「Psoria News」について、御意見・御要望がありましたらお書き下さい。

- ・今日初めてなので、頂いた会報をしっかり読ませて頂きます。
- ・帰って読ませて頂きます。
- ・専門的な情報も含まれており、有用な資料だと思われま。
- ・読みやすくわかりやすい。
- ・内容の正確さにいつも感心しています。今後ともこのレベルを守って頂けたらうれしいです。
- ・しかたないと思いますが、写真が分かりづらいですね。
- ・ファイルしているので穴を開けてもらえると助かります。
- ・いつも学習会の講演内容など詳しく掲載頂きありがとうございます。また大変な製作作業をありがとうございます。
- ・詳しい情報で役に立っています。
- ・いつもお送り頂きありがとうございます。とても参考になりありがたく思っています。

10.その他何かありましたらお書き下さい。

- ・頭皮の痒みから始まったのですが、全身に出ていた症状も落ち着いてきたので、どうしてこんなに高額な薬を飲み続けなければならないのかと少し医師を疑いもしましたが、本日の講演で病気の怖さを改めて知りました。夫を連れてくれば良かったと後悔しています。本日はありがとうございました。
- ・20周年おめでとうございます。今後ともがんばってください。
- ・いつもありがとうございます。
- ・今回の会場は講演が聴きやすく前方のスクリーンも見やすく山中先生のPPTなどが分かりやすかったです。
- ・膝が少し痛み出したので外科でレントゲンを撮りました。結果異常はありませんでしたが、関節症との関連を確かめるのはどんな検査がよいですか。
- ・もう少し項目を多くし、内容も突っ込んだアンケートを作られて会員の考え方がよくつかめるようにして会の運営を改めて、方向付けされてはどうかと思います。
- ・昨年の日本生命病院でお話を聞いた岩手医大の先生の言葉「知識は力なり」がとても印象に残っています。いろんな回に参加することが病気にプラスになると思いました。
- ・周りの者も言っていますが、阪大は遠く分かりづらい。交通の便の良い所に会場設営を願いたい。無理かな？
- ・この度20周年おめでとうございます。今後も宜しく願いいたします。素晴らしい20周年でした。
- ・仲間がいることを知りました。
- ・またよろしく願います。

「三重大皮膚科での乾癬治療の取り組み」

三重大学医学部皮膚科学講座教授

山中恵一



山中恵一先生

三重大皮膚科の山中です。私は三重大津市で仕事をしています。人口は27万人です。片田舎ですが、そういう所での診療ということでお話をさせていただきます。乾癬治療の王道は例えば東山先生や大阪の先生方がやっておられます。

ご承知のように乾癬というのは人生の質がとて満足いかないうような状態です。肉体面において満足いかないう、それから心においても満足いかないう

非常に厳しい状態なのです。例えば心不全の人は、心臓がアップアップしています。それは確かにしんどいでしょう。ところが乾癬の人は身体の症状、それから関節の症状によって、非常に満足いかないう状態において2番目です。心の面でもそうです。うつ病などもあるのですが、この評価でも3番目ぐらいに乾癬が入ってくる状態です。

軽い皮疹であっても人によっては非常に悲しいような現状に陥ることもあると思います。症状が酷くなると、例えばフケがパラパラ落ちるのが気になって、せつかく黒いスーツを着ても、肩口に白いフケがいつぱい落ちたような状況で人前に出れない、本当に恥ずかしく思ってしまう状態になってしまいます。また接客がしづらいです。それから温泉に行けない、これは非常に多くの方がおっしゃいます。ゴルフをしておられる方もそうです。皆その後で

シャワーを浴びたり温泉に入ったたりされるのですが、やはりこれが出来ないなどです。また若い人が結婚できないという悩みも抱かれています。

普通の健全な皮膚では白血球は、外からばい菌が入ると、それを取り除く為に活躍するのです。正常の皮膚にもパラパラといます。ところが乾癬の肌というのは白血球が非常にたくさんいるわけです。白血球がテンパってしまつて皮膚を攻撃します。でもつぶしはしないです。意地悪をしているような状況です。どんどん攻撃をして、その結果、皮は厚くなって、そしてフケのよなものが生じます。乾癬というのは血液の病気の一種で、皮膚の方は被害者です。免疫の異常、過剰反応です。

乾癬というのはなぜか同じ所に出て来ます。一旦塗り薬で治ったのにまた同じ所に出してくるようなことがあります。これもちゃんとした科学的根拠があります。一旦皮膚の表面で乾癬が起こってしまうと、この下の深い所に血液が宿るのです。覚えてしまっているのです。一旦ここで乾癬ができると、この下に住居人となつて、記憶を持った血液が長年に亘って住み着くのです。塗り薬を長く塗ったり、注射をしてよくなっていると、住んでいる記憶を持った細胞、血液というのはどんどん減ってきます。でもなかなかゼロにはなり

ません。そういう所で、もし外から刺激があったり、あるいは引っ掻いてしまったり、あるいはかぶれやこすれでもいいでしょう。せつかく数が減っている所がまたぶり返してきます。ですから何も起こっていない所に比べて記憶が残っているのです。また同じ所に出て来やすいのです。皮疹が軽い間に治療すると、十分に抑えられて記憶を持った白血球も数が減ってくると思います。

ステロイドという薬ですが、非常に多種類のものがあります。白血球が、皮膚に対して炎症、つまり乾癬を起こしてくるのですが、白血球に対してブレイキをかけてくれるのがいわゆるステロイドというものです。だから適切な方法で適切な場所に塗る分には非常に有効です。効果には上から下まで力に差があります。この差を医者側の見て、「ああ、この方だったら今はこの程度が必要ですよ」とふさわしい薬を出すわけです。医師は責任を持って、これが一番よくと思う薬を処方します。この薬を出すという時にはこの方にはこの薬を2週間塗って頂いたら効果があるだろう信じ処方し、患者さんの場合も、十分に効果が目に見えてくる、「このまま先生の言うことを聞いていたらいいのだな、やはり治るじゃないか」という期待が持てるのです。出す方は責任を持ってその薬を出しているのです。従ってやはり先生の言うこと

を聞いて、次回の診察まできちんと塗って頂くのがいいと思っっています。今時の若い人に軟膏をしても「えーっ、こんな学校へ行けない、仕事に行くとかカテカ光って目立つ」と思われています。そういう時に悩みが解決するのは、例えばローション製剤というのも非常にいいのです。

もう一つ外用はビタミンD3です。吉川先生が大阪の地で発見・開発されたのですが、これももう一つの重要な薬として使われています。現在は色々な働きが見つかっています。慌ててどんどん分厚くなっていく皮膚を「おいおいちよつと待てよ、もうちよつと大人になりましょうよ」と、皮膚が分厚くなるのを抑えてなだめてくれる薬です。中には塗り薬が効きにくい方もおられるのですが、きちんとした量と割合でしっかり塗る計画を立てると、赤味や分厚さ、フケなどは軽減します。

私達は津市で「街角アンケート」を取ったことがあります。塗り薬には軟膏とかクリーム・ローション・スプレー・フォーム(泡)とか色々あります。「この中でどれが一番使いたいですか」というアンケートを取りました。20才未満・20才〜40才・40才〜60才・60才〜80才で各々アンケートをとりました。20才〜40才の一番働き盛りの人達はクリーム・ローションを

選択されました。それから40〜60才も同じです。これはなぜかというところベトベト感がないからです。あっさりとしてサツパリしています。「塗った後仕事に行けるから、学校に行けるから」という理由でした。そして60才以上の方は軟膏・スプレーを選ばれました。スプレーは、「手が届かないと軟膏などは塗れないので、そういうものでもあれば有り難い」と答えられます。

また軟膏を選ばれた方もやはり多かったです。これは「なぜ？」と聞きますと、塗った感じがして、そしてしっかりと、感じた感じがする、充実感があるという意味合いで軟膏を選ばれました。従って同じ効力であれば出来るだけその患者さんの御希望に合わせたいと思うので、私は他の先生方よりもローションが多いです。

もう一つ大事なのは、私は、例えば8本出して「今度2週間後に来て下さいね、その時までには必ずなくなっていますから、それぐらいで使い切る分を今日はお出ししますから」という言い方します。一番大事なのは最初の2週間ぐらいです。そこで効果を出すと患者さんの喜びが得られると思います。大事なのはこすらない、カサブタを取らないことです。カサブタは取りたい衝動に駆られるのですが、そうするとまたそこに刺激が行ってしまい、コリコリとやったその刺激に対してまた白血球が来るのです。そうするとまた同

じような乾癬が出てしまいます。これはアトピーでも同じ事です。そして深酒をしないことです。日中は掻いてはいけないと思っっているのですが、酔っぱらってしまうと、夜中寝ていて掻きむしります。それからストレスです。これもきちつとした因果関係はなかなか証明できませんが、ストレスのほけ口が乾癬に来てしまい、ゴリゴリと掻いてしまいますから、これを避けたいと思います。

医者側にとっても典型的な乾癬ですと診断は簡単につきます。しかしなかなか難しい時もあります。人によっては水虫と捉えられることもあると思います。症状がよくならないということ、はひよつとしたら診断がどうか、本当に正しいの？ということがあり、

常日頃我々も立ち返っています。ですから主治医の先生は時々「もう1回生検しようか」と言われます。生検というのは、部分麻酔をして皮の一部を取って検査します。それはたしかに嫌です。体が傷つけられます。しかしながらその背景には「あれっ、ひよつとしたらこのままいつていいのだろうか」という不安を持つ時があるのです。そういう時には我々も「生検しようか」と言うと思います。その時はこのような背景があることを汲み取って頂けたらと思います。

飲み薬でもいいのがあります。ネオールを使っておられる方もあります。高血圧、あるいは腎臓の障害に常に注意しながら使っています。高価ですし、2年ぐらいまでにとどめておいた方がいいと思います。原則100ミリグラムとか125ミリグラム、あるいは150ミリグラムという量を現在では使用することが多いです。

またチガソンを使っておられる方もあると思います。お子様が出来る時にはなかなか使えません。また肝臓に障害のある方への使用も難です。唇が痛くてヒリヒリしてワセリンを何度も塗るといふこともあります。慎重に量を調節しながら治療を行っています。比較的安いです、若い患者さんにはなかなか難しいと思います。

最近オテズラという薬が出て来ました。これも皮がどんだん炎症を起こしてくるのを止めてくれる治療薬です。大体6割〜7割くらいの方に効きます。しかし月に1万数千円はかかってくるのです。この薬は初期には下痢や吐き気がひどい時があります。それを想定して、何とか切り抜けられるようにオテズラを出す時には、この対策を最初からします。それから光線を当てる治療です。本当に十分な効果を得るためにはできたら週2回がいいです。ちよつと次の日にヒリつきが残るぐらいの量でいくと効きます。光線を当てることによつて、

白血球が皮膚に突っ込んで来て、皮が燃えさかるわけですが、それを選択的に週2回光を当てることによって殺してしまうのです。そうすると皮膚炎が起きなくなることを狙ったものです。出来れば週2回、無理だとしたら週1回出来ればいいです。

最近出多く使われているのが生物学的製剤です。かなりの確率で効果がありません。魔法のような薬なのですが、全ての方に使っていないかといいますが、いろいろと制約があります。使っていない基準というものがありません。その基準とは、一定の面積、つまり全体の10パーセント以上とか、PASIスコアが10点といったものが設けられています。また生活の質が落ちているといったことも基準になります。いくら良く効く薬であっても、人によっては治療抵抗性ということがあります。現在、生物学的製剤はいろいろ出ていますが、選ぶ基準としては、関節症状があるかどうかで判断しています。乾癬の重篤な症状のひとつとして、関節症状があります。関節が痛いとか、曲がらない、変形するといったことが起こります。特に、大きな関節に症状が出ているかどうかによって選択します。TNFαが関与していることが分かっているのです。関節症状がある場合には、この作用を止める製剤（レミケード・ヒュミラ）を先ず選択します。レミケードは2カ月に1回の点滴です。原則と

して2カ月に1回、来院していただいて、治療することになります。ヒュミラでは、原則自己注射をおこなってらっしゃいます。最初の時に、きちっと投与方法、清潔操作を説明します。患者本人だけでなく、配偶者の方にも入ってもらって、かかる費用、注射の方法等を説明しています。患者さんが間違っていたり方をするのを防ぐために、そうしています。自己注射は自宅でできますので、95パーセントぐらいの方にしてもらっています。

費用負担は年収によって変わってきます。1160万以上、770万以上370万以上というような区分があります。まず、最初の来院時にこの話をします。紹介で来ていただくときに、生物学的製剤を勧められて、来られているので、手取り早く、いきなり年収をお聞きします。70歳を超えると原則、自己負担が安くなります。必ず申し上げるのは、高額療養費制度がありますから、これを利用するためには、役所や会社の関係部署で限度額摘要の認定書をもらってきてくださいということですね。そうしないと、立替払いをして、3月後に差額が還ってくるようになります。それ自体が負担になるので、最初に認定書をもらってきてくださいということをお願いします。福利厚生がしっかりしている会社では、付加給付というものがあります。いくら費用が掛かっても、月2万円を超える

と、超えた分を組合に負担してもらえます。関節症を伴う乾癬は、徐々に増えてきています。乾癬の方が100人おられたら、十数人のかたが関節症状を伴います。当院の外来に関しては、100人中48人ほどでした。全員がとは、言いませんが生物学的製剤との出会いによって人生が変わることもあると思っています。

高齢者の場合は、生物学的製剤は怖いのではないかとこの考えをお持ちの方もおられますが、高齢者の方でも適切に使用すれば大丈夫な注射もあります。当科で数年前にとった統計では、80歳以上の方も結構おられました。人生を変えたいけれど、生物学的製剤で免疫が落ちたら大変と思っておられる方には、落ちにくい製剤もあります。

は皮膚炎が激しいと、内臓にどれだけ影響を与えるのか調べました。皮膚炎が長引くと、血管は細くて固くなりま

症状のひどい乾癬の患者さんが、合併症として血管の病気が重なってくるということがあります。たとえば、心筋梗塞が多いです。また、脳梗塞も多いです。きちんと治療していれば、その危険性は下がってきます。皮膚が炎症を起こしており、皮膚から炎症性サイトカインが産生されます。それが現場で留まってくれればいいのですが、血中に入ります。そうすると血管がダメージを受けて、動脈硬化を引き起こすこととなります。マウスでの実験で

は皮膚炎が激しいと、内臓にどれだけ影響を与えるのか調べました。皮膚炎が長引くと、血管は細くて固くなりま

すこととなります。マウスでの実験で



乾癬の疑問に答える！

第2回 塗り薬について

近畿中央病院皮膚科部長（本会相談医） 樽谷勝仁

乾癬の塗り薬も次々と開発・発売されています。ステロイド・ビタミンD3がメインでしたが、最近は混合剤も普及してきました。しかしそれぞれ何種類もあります。

一体私にはどれがいいの？お医者さんは塗り薬の種類をどのように決めているの？同じD3の薬や混合剤の薬はそれぞれどのように違うの？薬によって効果に違いはあるの？

今回は、樽谷先生に塗り薬の色々な疑問についてお聞きしました。



お答えします～



①混合製剤が2種ありますが、「ドボベット軟膏」と「マーデュオックス軟膏」、どのように違うのでしょうか。またどのように使い分けられるのでしょうか。



うか。

「ドボベット軟膏はカルシポトリオール軟膏とベタメタゾンジプロピオン酸エステル軟膏の混合軟膏で、商品名でいえばドボネックス軟膏とリンデロンDP軟膏の混合軟膏です。

マーデュオックス軟膏はマキサカルシトール軟膏とベタメタゾン酪酸エステルプロピオン酸エステル軟膏の混合軟膏です。両者ともビタミンD3軟膏とベリールストロングクラス（ステロイドの強さ

が5段階あるうちの強い方から2番目）のステロイド軟膏の混合軟膏です。単純に両者を混ぜると濃度が半分になります。これらの混合製剤は元の軟膏と同じ濃度です。また、ビタミンD3軟膏は酸性に傾くとその効果が不安定になり、逆にステロイド軟膏はアルカリ性に傾くとその効果が不安定になります。これらの混合製剤はPHを調節するなどして両者が安定するように作られています。また、両者とも1日1回塗るだけでその効果が出るように設計されています。

どちらの混合製剤が効果があるかということについては人によって違いがありますが、ドボベット軟膏はドボネックス軟膏と同様少し刺激性があるので顔には使わないようにという注意書きがあります。また、1週間に90gを超える使用は行わないこととなります。

軟膏製剤だけでなく最近液状のゲル製剤も発売されました。ゲル製剤は頭に使いやすいですが体にも使えます。マーデュオックス軟膏は体の部位による使用制限はありませんが、顔に塗るにはステロイドのランクが強いのので注意する必要があります。この軟膏は使用量が1日10gまでとなっています。両者とも大量に使う場合は体がだるくなったり吐き気がしたり口が渴いたりというような症状が出てくる高カルシウム血症に注意する必要があります。

特にお年寄りの方や皮膚が薄くなっている方は要注意です。

②今までのビタミンD3製剤やステロイド製剤単独よりも効果が高いとのことですが、今後は混合製剤が主となるのでしょうか。ビタミンD3製剤とステロイド製剤をそれぞれ単独で使うこと、あるいは併用するような塗り方はなくなるのでしょうか。

「混合製剤は1日1回外用で効果が高い薬ですが、効き方や副作用は人それぞれです。今後は混合製剤が主流になるでしょうが、乾癬の症状がひどい方に強いステロイド製剤をしばらく単独で使い症状を早く良くする場合があります」とのこと、顔には混合製剤は強すぎるので少し弱めのステロイド製剤やビタミンD3製剤を単独で使った治療はこれからも行われるでしょう。

また、乾癬の皮膚症状がなくなればメインテナンスとして週何回かビタミンD3製剤を使うこともあると思います。元からあったステロイド製剤とビタミンD3製剤の混合ですが、混ぜたものを薬局で作ってもらう場合は日持ちがしないので注意が必要です。また、直前に2つを混ぜ合わせることは可能ですが、少し面倒です。」

③どちらもステロイドが含まれており、やはり長期の使用は好ましくないのでしょうか。ある程度改善すれば従来の

ビタミンD3製剤を中心にしていくのが望ましいのでしょうか。

「混合剤は両方の欠点を補い、皮膚が薄くなったり血管が浮き出てきたりといったステロイド製剤の副作用は単剤に比べて少なくなりますが、混合剤の長期的な使用は避けて皮膚症状が良くなればビタミンD3製剤に変えて行くことが望ましいと思います。」

④これら以外に新しく混合剤が今後開発・販売される予定はあるのでしょうか。

「現在のところは新しい薬の開発、販売の情報はありません。」

⑤やはり薬価がかなり高いですが、ジェネリックはありますか。また利用できますか。

「ドボベツト軟膏、ドボベツトゲル、マーデュオックス軟膏ともに発売されてまだあまり日が経っていないのでジェネリックは発売されていません。」

⑥生物学的製剤やオテズラとは併用しますか。

「生物学的製剤やオテズラと混合製剤と併用すると乾癬の症状が早く良くなると思いますので、併用をお勧めします。また生物学的製剤やオテズラを使っても乾癬の皮膚症状が残る場合にピンポイントで使用することもおすすめます。」

秋の女子会は天満橋で 中華料理を満喫



11月18日、第18回女子会。天満橋で中華料理をいただきました。参加者は10人。徳島から参加のSさん、念願だった徳島の患者会を発足。立上げの会を10月20日開催したこと、会員はまだ少ないが頑張ると報告。みんなから称賛を受けました。会には女子会のメンバーも応援に行きました。

少し遅れて参加のYAさん、やせてきれいになっていたの質問攻めでした。

いつも写真を郵送してくれているYKさんが9年間の女子会の写真を持ってきてくれ、ひと昔前を懐かしく思い出しました。今回も帰りにお店お前で集合写真を撮りました。

ティータイムは大川沿いのMACで。椅子10脚確保に苦労しましたが対岸の桜が赤く色づきとても綺麗でした。晩秋のあたたかい1日をおしゃべりして楽しく過ごしました(副会長 吉岡)。





その24…紫外線治療と色素沈着



小林皮フ科クリニック 小林照明

30歳代女性の患者さんで、高校生の時から15年近く乾癬の皮疹に悩まされておられる患者さんがクリニックにやって来られました。当クリニックへ来院されるまでに数多くの病院へ行かれたようです。乾癬の患者さんでいろいろな病院でたくさんの説明を受けている患者さんは珍しくありません。ただ早急な効果を求めるあまり、短期の受診を繰り返すだけで治療を切り上げておられるようなので、当クリニックではこれまでの様に早急な結果を追いかめずにじっくりと治療に取り組んでいただけるかを確認した上で、紫外線治療を始めました。

若い女性の乾癬は紫外線治療の効果が出やすいという印象があるので低い照射量から始めますと、予想通り5～6回目ぐらいで70～80%の皮疹が消退しました。患者さんにはさぞかし喜んでいただけたと思いましたが、顔を見てみると今一つ冴えない表情です。そこでこちらから「乾癬の皮疹が半分以上消えましたね。」と私にすれば控えめな言い回しをしてみたのですが、患者さんの答えは「乾癬の跡の色の沈着はいつ消えますか？」でした。この患者さんは特に肌の色が白い方で、確かに乾癬の皮疹のあった部位にまだら模様褐色調の色素沈着が残っていました。病変が無くなってその跡については時に淡い褐色調でしばらく残ったり、逆に白く抜けた様になることもよくあるので、医者としては特に気に留めなかったのですが。

乾癬に限らず一般的に火傷やケガの治療が終われば、その跡について医者はあまり気にしない傾向があります。しかし患者さんにとっては、特に若い女性には元の皮膚の色調に戻って初めて治療が終了したことになると思われました。早急な結果を気にしていたのは私の方だと知らされた一例です。

(小林皮フ科クリニック…大阪市淀川区三国本町3-37-35 阪急宝塚線三国駅下車)

大阪乾癬患者友の会(梯の会) 顧問・相談医一覧

名称	名前	所属・関連病院	住所
顧問	吉川邦彦先生	大阪大学名誉教授	
相談医	東山真里先生	日本生命病院	大阪市西区江之子島2-1-54
	片山一朗先生	大阪大学医学部付属病院	吹田市山田丘2-2
	乾重樹先生	心斎橋いぬい皮フ科	大阪市中央区南船場3-5-11
	谷守先生	谷皮フ科	豊中市庄内西町3-2-6
	川田暁先生	近畿大学医学部付属病院	大阪狭山市大野東377-2
	松田洋昌先生	近畿大学医学部付属病院	大阪狭山市大野東377-2
	吉良正浩先生	市立池田病院	池田市城南3-1-18
	小林照明先生	小林皮フ科クリニック	大阪市淀川区三国本町3-37-35
	中村敏明先生	なかむら皮フ科	大阪市西区西本町3-1-1
	辻成佳先生	大阪南医療センター(整形外科)	河内長野市木戸東町2-1
	樽谷勝仁先生	近畿中央病院	伊丹市車塚3-1
	鶴田大輔先生	大阪市立大学医学部付属病院	大阪市阿倍野区旭町1-4-3
	立石千晴先生	大阪市立大学医学部付属病院	大阪市阿倍野区旭町1-4-3
	山岡俊文先生	中津皮フ科クリニック	大阪市北区豊崎3-20-12 パールグレイビル6F
山崎文和先生	関西医科大学	枚方市新町2-5-1	

お知らせ

★編集局では皆さんの原稿を募集しています。乾癬についての自分の体験、自分が行っている治療法、日常生活で心がけていること、乾癬治療に役立った事、その他何でも構いません。エッセイ・詩・短歌・俳句などもぜひ投稿してください。お待ちしております。

★「PSORIA NEWS」では「乾癬Q&A」コーナーを設けています。症状や治療法、薬など乾癬に関する質問がありましたら編集局までお寄せ下さい。代表的な質問などを選んで、相談医の先生方に会報上で答えて頂きます。

幹事募集！

★幹事募集！「大阪乾癬患者友の会」の幹事会は全て会員や相談医の方のボランティアで成り立っています。会では幹事になって頂ける方を募集しています。幹事の人数が少なく大変困っています。自分のやれる範囲で結構ですから、ぜひお手伝い下さい。当面次の仕事をお手伝い頂ける方を探しています。 1) 定例総会等行事のボランティア 2) 会報送付作業のボランティア 3) ホームページ管理等のボランティア 4) 幹事会参加メンバー(5名程度)

ホームページのご案内

大阪乾癬患者友の会(梯の会)では、ホームページを作成・運用しております。乾癬についての治療法・薬・生活上の注意や総会のお知らせ・会報の抜粋・掲示板・乾癬関係のホームページへのリンクなどが掲載してあり、役に立つ情報が一杯です。ぜひ御覧になって下さい。ホームページアドレスは下記の通りです。



<http://derma.med.osaka-u.ac.jp/psor/>

会員の皆さまへ お願い

※会費をダブって振り込まれる方が増えています。領収書は大切に保管しておいてください。なお、会報が届かない場合は、お手数ですが事務局までお問い合わせください。

※転居されたときは、会報等を確実にお届けできるよう、事務局までご連絡ください。

「PSORIA NEWS」 第76号 2019年(平成31年)3月発行

発行：NPO法人 大阪難病連加盟
大阪乾癬患者友の会(梯の会)
事務局：〒550-0006 大阪市西区江之子島2-1-54
日本生命病院皮膚科内
E-mail
info-psoria1@derma.med.osaka-u.ac.jp
発行責任者 岡田(会長) 小林(編集責任)

2019年 大阪乾癬患者友の会 幹事

会長	: 岡田	会計・イベント	: 桔梗	女子会	: 吉田
副会長	: 妻木	監査・難病連	: 加納	女子会	: 原田
副会長	: 吉岡	会報編集	: 小林	幹事	: 中山
事務局長	: 長生	難病連・広報	: 宮崎	幹事	: 池内